



尾山台小だより

2月号

学校教育目標【明るい子 考える子 たくましい子】

～確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童の育成～



〔尾山台小ホームページ〕<http://www.city.ageo.lg.jp/site/oyamadai-elementaryschool/>
または、「上尾市」ホームページ→「上尾市立幼小中学校」→「尾山台小学校」をクリック

「鬼は外、福は内！」自分の中の弱い気持ちを退治しよう

校長 熊坂 由美子

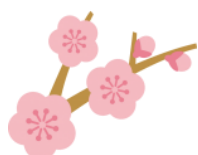
今年2月3日が「節分」となります。節分とは、季節の分かれ目を指し、もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前の日を言いましたが、特に、旧暦の一年の始まりとして尊ばれていた立春の前日の日を「節分」と言うようになったようです。まだまだ寒い日々が続く時期ですが、日差しの強さに春の訪れを感じ始める頃でもあります。

節分には、ヒイラギの枝にイワシの頭を焼いたものを差し、門の戸に貼り付ける風習もあります。季節の変わり目には邪気が入りやすいとされていたので、それを追い払うためです。また、大豆の煎ったものをまいたり、豆まきの後、自分の年より一つ多く大豆を食べたりしました。今でもこれらの行事を続けている御家庭もあるかと思います。最近では、恵方（幸運を招く方角）を向いて太巻きをまるかじりする関西の風習も人気です。今年の恵方は、南南東のようです。いずれも、新しく始まる一年間の無病息災を願うという意味合いが込められています。



学校では、節分にちなんで「自分の中にある弱い気持ちを退治しよう」ということを、子供たちに話しました。例えば、「おしゃべり鬼」「悪口鬼」「けんか鬼」「時間を守らない鬼」「忘れ物鬼」などです。学校は、みんなで生活する場所なので、みんなが好き勝手にふるまっていたはいやな思いをする人が出てきます。おしゃべりをしたくなくても休み時間まで我慢する、相手の気持ちを考えて行動する、時計を見て何をする時間なのか判断する、家に帰ったら明日の用意を忘れないようにしてしまう、など、日頃少しずつ、一人一人が気を付けていくことで、学校が誰にとっても居心地のよい場所になっていきます。「自分くらいは、、、」という弱い気持ちを打ち消して、「自分だけでも！」と頑張ってほしいです。

尾山台小には、「自分だけでも！」と頑張っているお子さんもたくさんいます。朝の登校の様子を見ていると、低学年に合わせてゆっくりと歩いている班長さん・班員さんをあちらこちらで見かけます。校内でも、先生が重いものを持っていると「手伝いますよ」と声をかけて手伝ってくれる子もいます。掃除の時間、周りの子がなかなか取りかかろうとしない時、一人で黙々と雑巾掛けをしている子もいます。体育の後、みんなが教室に戻ってしまっても、用具の片付けを一生懸命している子もいます。給食当番でもないけれど、こぼれている牛乳を拭いたり、ゴミを拾ったりしている子もいます。そんな子たちは、誰かから褒められるためにやっているのではなく、自分のやるべきことを自分自身で判断して実行しています。そんな素敵な子供たちが、もっともっと増えてほしいと思います。



誰もが気持ちよく通える尾山台小は、一人一人の心がけでつくれます。保護者の皆様、地域の皆様には、子供たちへの温かい声かけや見守りを、今後ともよろしく願いいたします。